

2B07p12 花粉アレルギーモデルに対するワサビイソチオシアネートの抑制効果

○森光 康次郎、洲崎 裕美子、永井 雅¹、奥西 勲¹、久保田 紀久枝 (お茶大院・ライフサイエンス、¹金印(株))

【目的】ワサビ成分による炎症抑制効果が報告されている。本研究では、ヒト骨髄性白血球HL-60細胞を用いた活性酸素生成と抗花粉抗原アレルギーモデルに対するワサビイソチオシアネートの抑制効果を調べた。

【方法及び結果】HL-60細胞を用いた活性酸素生成抑制実験において、チオ体(6-methylthiohexyl isothiocyanate)が阻害活性を示した。さらに、BDF-1マウスを用い、ワサビ粗抽出物、チオ体及びポジコン(マレイン酸クロルフェニラミン)投与群にそれぞれ分け、15 μ mol/dayにて28日間胃内強制投与しながら花粉抗原に3度感作させて花粉アレルギーモデルを作製した。再び花粉抗原を点鼻して(花粉症モデル)鼻搔き及びくしゃみ行動を、花粉抗原を噴霧して(気道炎症モデル)気管支肺胞滑液細胞中のTh1/Th2バランスを測定した。その結果、チオ体は花粉症モデルにおける両行動を優位に減少させ、気道炎症モデルにおいてもOTC薬に頻用されているマレイン酸クロルフェニラミンとほぼ同等のアレルギー緩和作用を示した。